

④ 今なお受け継がれる武家文化

相馬野馬追

～奇跡的に伝わる武家文化と、広大なスケールを垣間見る文化遺産～

■相馬野馬追とは？

相馬野馬追は、武士姿の騎馬による各行事が行われる相馬地方を代表する文化財です。江戸時代の武家文化の一端を残すことや、特に絵馬奉納の起源に通じる上げ野馬神事が行われる「野馬懸」は、人と馬との古い交わりを示す神事として評価されています。

■江戸時代の野馬追

江戸時代までは、相馬氏により、原町区市街地をほぼ覆う広大な牧「野馬追原」に放牧されていた野馬を騎馬武者が追う「野馬追」を行っていました。野馬追に続いて、野馬を小高妙見社（相馬小高神社）へ追い込み、捕らえ（野馬懸）、相馬氏が信仰する妙見に領内の安寧を願って神馬として奉納していました。この野馬追は武芸訓練としての側面と野馬追を通じて中村藩の結束を図る相馬氏の武家行事としての意義も備えていました。

■明治時代以後の野馬追

明治時代となって武家政権が終焉するとともに、行事も消滅の危機を迎えましたが、以降は相馬氏の妙見社に由

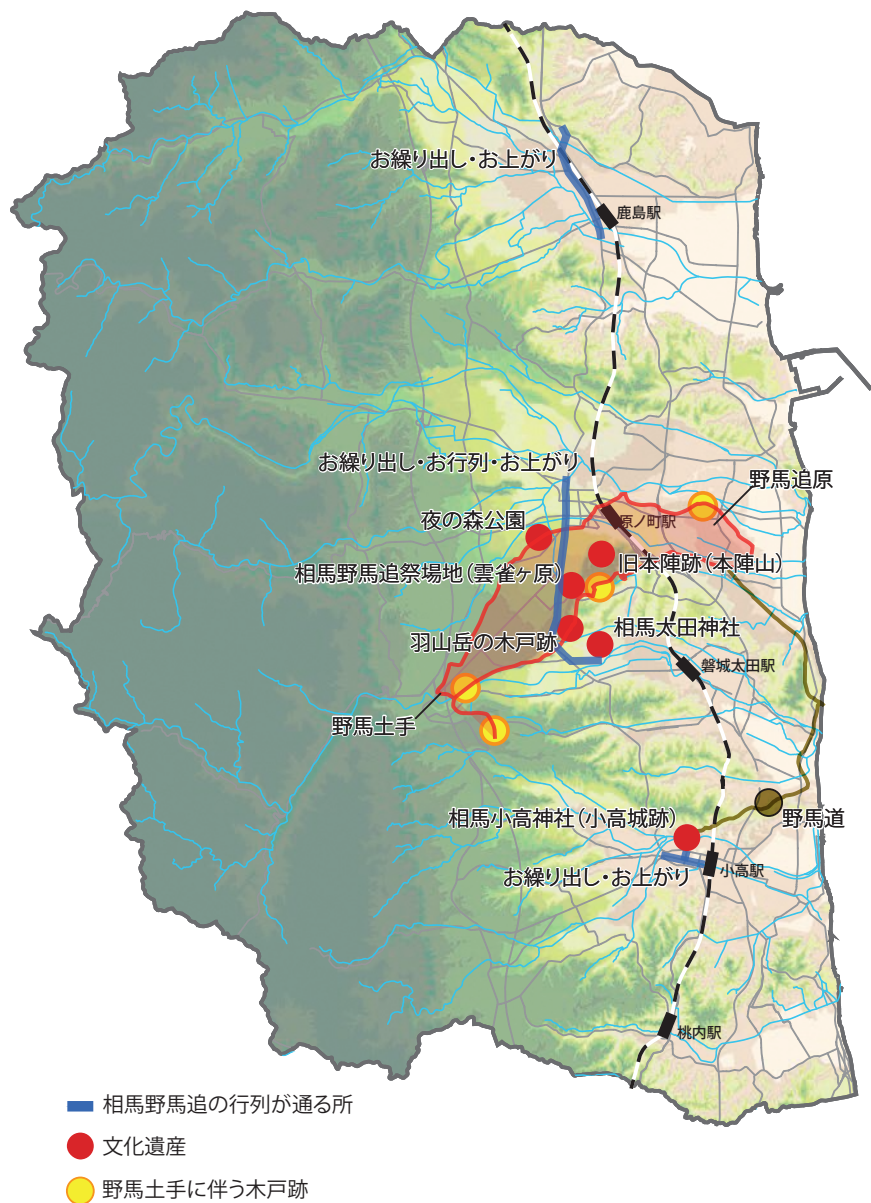
来する相馬三社（相馬太田・相馬小高・相馬中村）の神事によって消滅をまぬがれました。野馬を追う野馬追に代わって、野馬になぞらえた神旗を奪い合う「神旗争奪戦」が始まるなど、行事内容が大きく変化しながらも、現在も全国的に希少な武家文化を受け継ぐ伝統行事として、旧中村藩領内で開催されています。

そして、この野馬追は当地方の代表的な年中行事となっており、地域住民に深く野馬追文化が根付いています。毎年7月になると野馬追に用いられる旗が街中に掲げられ、まつりが近づくことを感じられます。

■野馬追に関わる文化遺産

市内には、野馬追の原形をとどめる野馬懸の祭場地である相馬小高神社をはじめ、江戸時代に野馬追を行っていた広大な野馬追原のスケールを垣間見ることができ、野馬土手、木戸跡などが残されています。これを通して、現在まで続く野馬追行事の変遷をたどることができ、野馬追の本質的な意義を知ることができます。

相馬野馬追を伝える文化遺産



そう ま の ま お い
小鹿原 相馬野馬追



鹿島区の行列



原町区の行列



神旗争奪戦



野馬懸

1日目

相馬野馬追の1日目は相馬^{おた}太田神社など相馬三社に江戸時代から続く郷単位に騎馬武者が集まります。各神社からは神輿^{みこし}とともに騎馬武者が原町区^{ひばりがはらさいじょうち}の雲雀ヶ原祭場地に向かって繰り出していきます。

2日目

2日目は原町区市街地の街道を約3キロメートル行列します。江戸時代から各家に伝わる旗を掲げながらの総数400騎にのぼる騎馬武者のお行列の様子は、中村藩^{なかむらはん}の武家文化を感じることができます。

雲雀ヶ原祭場地では、花火で打ち上げられた神旗^{しんき}を奪い合う神旗争奪戦^{しんきそうだつせん}が行われます。この行事は明治時代以後のものですが、江戸時代に行われていた馬を追っていたことを旗に置き換えた野馬追の意義を引き継ぐ行事です。

3日目

3日目は相馬^{おだか}小高神社にて、騎馬武者によって追い込まれ、御小人^{おこびと}により捕らえた馬を神前に捧げる野馬懸^{しんげん}が行われます。旧中村藩領^{はんえい}の繁栄と安寧^{あんねい}を祈願する野馬追の最も大事な神事です。絵馬奉納^{えまほうのう}の起源を残し、日本の馬の信仰を示すものとして評価されています。

小相馬小高神社

県史跡「小高城跡」内にある相馬三社の一つで相馬野馬追の3日目の「野馬懸」の祭場地です。小高郷のほか、南に位置する標葉郷（浪江町等）の騎馬武者が集まり、繰り出します。

明治時代にあった小高の大火事で消失しましたが、豪勢な造りの本殿が再建されています。



原相馬太田神社

相馬野馬追を行う相馬三社の一つです。江戸時代まで藩主相馬氏の行事だった野馬追を、明治時代に神事として再興させる際に主導的な役割を担った神社です。明治時代は中ノ郷の武者たちにより雲雀ヶ原祭場地から相馬太田神社まで野馬を追っていました。



原日本陣跡

江戸時代の野馬追の際、藩主が本陣を設けた山です。この本陣の様子は江戸時代の絵図などに描かれています。現在は展望スポットとして整備され、かつての広大な野馬追原を偲ばせる光景を見ることができます。かつての野馬追原は東西9キロメートル、南北3キロメートルに及ぶ広大な原っぱでした。



小鹿原江戸時代の野馬追

江戸時代は、原町区市街地をほぼ覆う広大な牧「野馬追原」に放牧されていた野馬を騎馬武者が追う「野馬追」が行われていました。野馬追原は野馬土手に囲まれた牧で、現在の雲雀ヶ原祭場地の100倍にも及ぶ広大な範囲でした。

追い出された馬は巢掛場の木戸（原町区）から追い出され、「野馬道」を通って、小高妙見社（現在の相馬小高神社）へと向かいます。途中、野馬は海岸の「野馬沢」で海水に浸かって身を清められます。妙見社に追い込まれた馬は現在と同じく、御小人によって捕らえられ、奉納されます。このような江戸時代の野馬追の様子は屏風や絵馬などに描かれています。



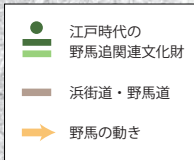
紙本著色野馬追図（個人蔵）



相馬野馬追額（相馬小高神社）



相馬野馬追図屏風（南相馬市博物館）



江戸時代の野馬追の流れ



奥州相馬妙見祭其二野馬追之図 広重写

原 そう ま の ま お い ひ ば り は ら 相馬野馬追（雲雀ヶ原）祭場地

現在の相馬野馬追祭場地は「雲雀ヶ原」と称されます。1日目の宵乗競馬、2日目の甲冑競馬・神旗争奪戦等の各競技が行われます。江戸時代の広大な牧であった「野馬追原」の一部であり、相馬三社の飛地境内として現在に至っています。



原 よ も り 夜の森公園

江戸時代、もっとも見物人が集まる観光スポットとなっていた丘です。当時の野馬追絵図にもたくさんの人々で賑わう夜の森の様子が描かれています。

戦前、野馬追1日目の宵乗競馬は、おおむね夜の森の麓の馬場で行われていました。



原 は や ま だ け き ど あ と 羽山岳の木戸跡

江戸時代の「野馬追原」の出入り口である「木戸」跡の一つです。このような木戸跡はかつては野馬土手に数か所設けられていましたが、現在はほとんど残っていません。

特にこの木戸は、街道から野馬追原に入る南の主要な入口として重要とされています。現在は石垣積の土手が残っています。



の ま み ち 小原野馬道

江戸時代、「野馬追」によって野馬追原の牧を追い出された野馬が、野馬懸の祭場・小高妙見社（相馬小高神社）へと向かうための道です。現在は原町区・小高区の境にある丘陵地の尾根沿いの道のみ残っています。

この小高の海側から続く道は「塩の道」としても知られています。



の ま ど て 小原野馬土手

野馬による農作物被害等を防ぐため、寛文6年（1666）中村藩3代藩主・相馬忠胤の代、領内の百姓たちを集め築かれた「野馬追原」の土手です。桜井古墳公園や東ヶ丘公園内など市内数か所に現存しています。土手には堀が伴っており、馬が飛び越えることを防ぐつくりとなっています。



東ヶ丘公園内の野馬土手

ご しん すい 小御神水

相馬小高神社境内に湧く水で、古くから、馬に関する怪我に効く霊水として知られ、その水を浸した御札を将軍家に献上したこともあります。野馬懸に臨んで怪我をした御小人を治す水として、現在の野馬懸でも使用されています。かつては、小高区の日鷲神社の御神水も合わせて野馬懸に用いられていました。

